



門一遠13
番 1271
卷 1-13

伽婢子序

夫主人の志を修むるは誠と徳とを以て

身とするの理にあらずや。夫

下國家その用ふるにその信を易くして

之を總て信力礼神とて之を以て

と信するに其の意を以て則とあらずや。

つゝ易の志の野を觀ふに其の書に曰く

中不難の信とてある。其の信は礼儀の事



春正古曾敬爾左
年留布美良乃畏流之



と云あり。結より國風部内なる篇を載せ。其
中一はくしてゆけき體なり。然るに流や公體よ
ハラ世因果の理と謂ふて。平生流體の事とい
海一め。或ハ神も或ハ靈化のふくくと説きあり。
又神名の事徴する。あままた石よつらまた。見
るそら流し書あるよりと云う。てお流の妙理と
ありあり。こ靈とのく果理あり。特怪は天感靈
乃じのくうと云う。と云ふて。その道よつらと云

ふ。殊にほほ靈靈傳。結集百家の書と云ふに。其
に評し。棟も元といふ。是事物記述の編。古今
集傳の文。何ぞ只又車一讀のこあらんや。中
うと花山は伊豆の大木物語。うは太神の拾遺
物語。を介行な。うらなる後集の書と云ふ。先
傳く事。物もまたと云ふ。と云う。と云う。と云
救ふ。道あり。然るにふけ伽椰子。と云う。た
と云ふ。あつた。と云う。ゆり。と云う。と云う。載あり。め

あつてありしもの之を智のくの目とさうか
し先身とさうかたのふまふと見え女の子をお
とらむ。あつてゐるをあたためる。あつてお
の補ともひとその目とさうかして身と修せ
ざうは古人のあつては也。陰陽のあつての
化のなまめして測りてぬきあつてあつてし時
面をさうかとらむとさうか。さうか。あつてあつて
千四百六十六年一月一日。釈木子松を慮る自序

伽婢子序

伽婢子松を慮る自序之所著也
凡若干卷。既云、神性、其是也。
事言、辞之、深、響、也。吟、詠、之、嚴、系。
華、也。獲、矣。人、口、者、不、可、獲、也。晋
論、語、說、曰、子、不、修、性、神、矣。茲、出
之、佐、不、見、懷、也。即、欺、人、也。詩、子

云、不純、厥、士、之、志、干、乃、志、搜
 載、籍、之、累、阿、涵、禮、法、之、淵、源
 擇、云、擇、行、積、善、累、德、而、施、不
 減、之、名、若、夫、肩、人、孺、子、之、不、知
 讀、詩、書、再、寸、搏、聞、之、內、身、毋、多
 負、直、之、身、靈、浮、之、俗、日、以
 長、保、聞、精、微、之、言、疾、首、感、顛、顛

啾、之、音、匠、經、典、之、沉、源、載、竹、籍
 之、浩、瀚、劬、之、女、會、龍、身、而、鼓、之、何
 為、之、有、伽、婢、子、之、為、書、言、據
 新、奇、之、象、極、涉、近、怪、異、之、驚、為
 身、滑、純、之、說、人、寐、之、碎、音
 倦、得、之、舒、音、是、肩、人、孺、子、之
 所、好、讀、之、多、也、山、之、男、女、淫

奔^ラ日^ス公^ス云^ク深^ク誠^ニ悉^ク神^ノ位^ニ公^ノ
欲^ス敷^ク理^ヲ確^ニ也^ト君^ノ子^ノ達^ス后^ノ子^ノ
子^ノ敦^ク欲^ス使^ハ之^ヲ備^フ也^ト而^{シテ}
寛^ク文^ニ六^年龍^集丙^子正^月下^旬

雲集

伽婢子廻目錄

才二卷

序

其^レ之^レ初^ニ祇^々未^ズ終^ス之^レ文^ノと書^キ事^ト
又^ハ古^ノ決^ス英^金と明^クて控^シ印^スとる^ル付^キ也^ト書^キ物^ト終^ル

才二卷

場^ノ古^ノ決^ス十^二津^川乃^ハ仙^境入^ル事^ト
其^レ之^レ初^ニ祇^々未^ズ終^ス之^レ文^ノと書^キ事^ト
又^ハ古^ノ決^ス英^金と明^クて控^シ印^スとる^ル付^キ也^ト書^キ物^ト終^ル
割^リ竹^ノ小^ノ海^ノ古^ノ決^ス英^金と明^クて控^シ印^スとる^ル付^キ也^ト書^キ物^ト終^ル

才三巻

漢田らるる未業は多とありかるる

精谷法を而るる成る

粘丹打猪

友原基彩の海賊の巻

才四巻

浅原新魚同魔を討建の事

船田をを及れらるるの事

越佐高一様は永年の業死の事

入櫃の尸魁性

野海老をが島の曲具物終る

才五巻

毛物信和が残る精霊に巻

精谷安第の勇士の元祝を巻て徳博と終る

富田之内蒸出油をいりて火難を道る

原隼人作巻終る事

才六巻

伊勢の序巻仙伝の

名田の刀自室刃義廣よ存て此も物終の
蘇井信之極世に誠也と傳事
嶋乃切刃の事

名田信吉白雲月の妖物よ存り

中七巻

伏見の善言法馬の事

善言法馬の事

花か夜が妙の事

小山田江内輝也の事

梅田津大津田美八と妻と事

妻名九右衛門権左河の曲事

豊田文而言白の神の如後と事

中八巻

長瀬園の事

住海麻呂の神の如後と事

長谷寺の事

隅屋次が事

屏風の法人の事

才九卷

安室長平決狐子籠りころも

下界の他境の事

仲原まゆみと出雲子契ゆる

人面瘡の事

丹波まゆみは冠女此事

才十卷

守宮の奴物事

累代武部が高水神となゆ事

上松屋政息女沙子の事

竊のあれ事

徳能付花馬風事

了仙美実行付天狗乃事

才十一卷

栗栖望徳里の事

太伊の必拘神付金懸の事

老田孫吉の事

七女蛇乃事

雅治交勝就徳川の事
大崎源五郎が徳川の怪物事

才十二巻

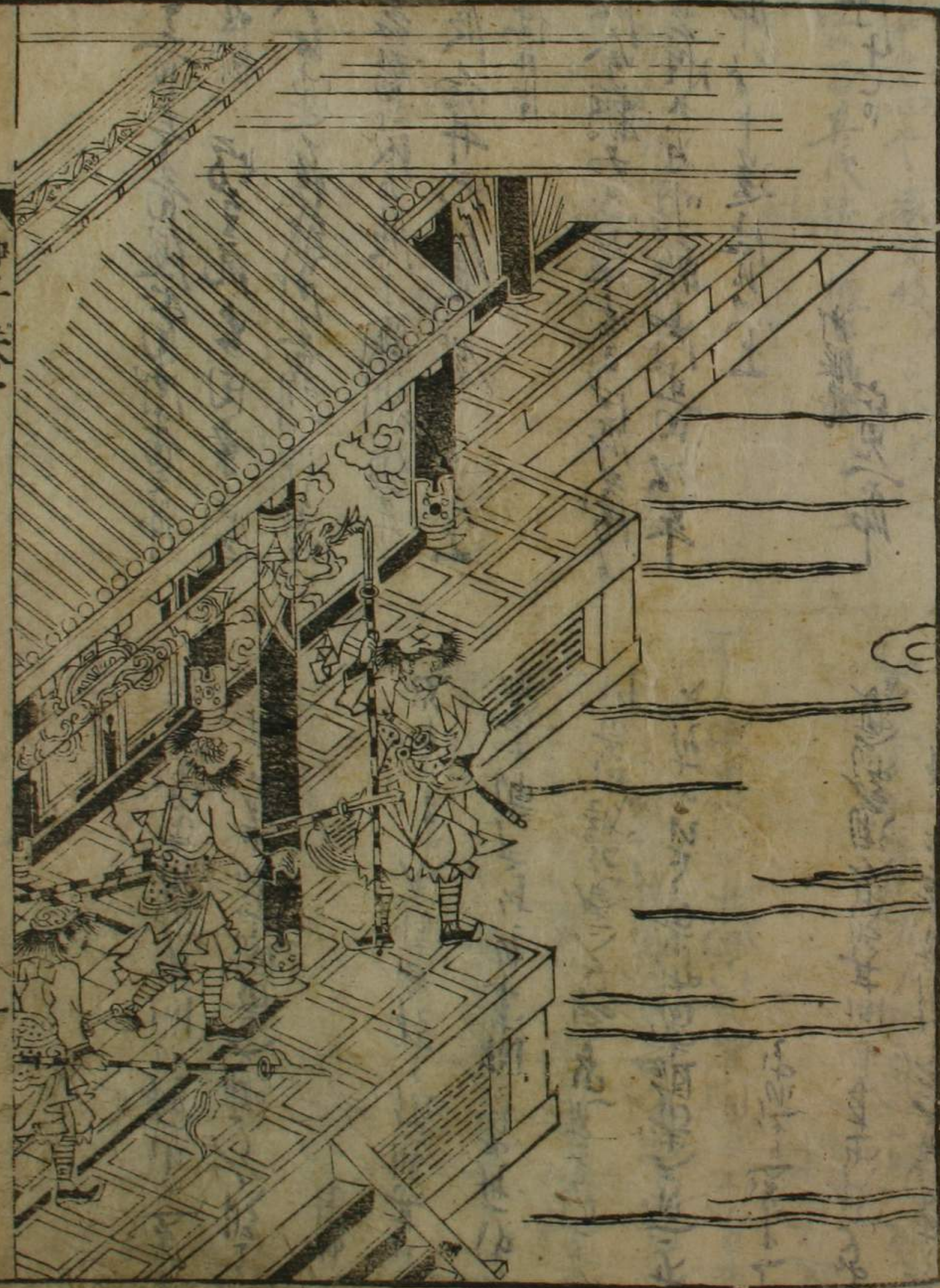
梅乃妖精の事
芦崎ねむる事
厚狭が死霊の事
白石右衛門の射新媒の事
盲女と殺して幸いといふ事
石軍一の事

才十三巻

親世者の河津能の事
傳七病の事
小蛇病乃中らるる事
傳七病と標の事
随持が力帯れ事
狂病の事
山中鬼魅の事
義輝公と馬言事

王の威と冒して。お家の礼とうけまらんや。と。珍
王のいと。み。を。あ。と。や。しく。と。き。れ。と。じ。う。ひ。り。り。隣
正し。終。ふ。ま。及。び。ば。を。お。弁。て。座。の。と。う。の。け。せ。ら。つ
く。ま。う。七。葉。の。座。よ。の。かり。あ。ふ。う。し。び。さ。て。座。さ。り。
く。お。や。こ。う。ふ。座。あ。入。ま。り。か。や。こ。う。珍。王。又。座。と。く
だ。り。隣。り。お。と。く。ま。い。も。こ。り。た。れ。む。こ。ん。の。あ。り。り。つ。の
あ。も。さ。こ。う。き。こ。さ。か。ひ。み。の。世。ら。ん。も。む。か。し。と。な。ま。の
う。り。と。い。つ。さ。い。に。き。に。さ。り。た。り。と。う。の。つ。う。り。か。く。感。依。
さ。い。然。七。葉。の。の。て。ら。う。ゆ。り。と。あ。ま。て。あ。げ。り。く。お。座。
りの。かり。座。り。た。り。と。り。ま。い。座。と。あ。り。ぞ。と。て。全。
隣。り。の。り。こ。う。と。ね。ら。つ。て。ま。う。ふ。と。ぞ。ふ。を。さ。こ。ま。り。と。珍。
王。こ。う。と。け。る。に。お。座。の。ま。ま。と。し。び。ん。と。て。う。つ。と。

つ。あ。こ。ら。ね。と。う。い。た。ま。ふ。さ。し。と。さ。ら。と。い。ひ。て。と
と。先。う。な。ま。と。お。れ。ね。ま。う。ふ。と。人。の。あ。ま。さ。ね。お。の
ふ。も。と。お。り。お。座。り。の。かり。終。へ。と。り。か。り。ま。し。と。隣。り。
い。り。く。後。へ。れ。一。ヶ。の。ゆ。居。あ。り。ど。中。さ。が。ま。座。よ。お。
て。座。り。の。かり。ん。事。と。ま。ね。わり。と。こ。ん。の。あ。り。あ。り。
い。ん。く。ま。ま。と。人。と。珍。座。と。その。こ。う。い。座。と。ら。あ。
座。あ。と。え。た。ま。も。神。ま。と。そ。ふ。ん。あ。ま。の。ん。か。ん。ら。り。
わ。さ。う。せ。り。あ。これ。と。ん。あ。ん。や。あ。い。座。ド。と。さ。ま。つ
ま。り。お。ん。を。隣。り。と。に。と。よ。び。ん。と。や。く。座。よ。座。り。あ。て。
ま。と。す。あ。り。ら。座。り。座。と。珍。ま。う。う。ら。も。け。ら。座。と。ら。
か。と。わ。ら。あ。り。ひ。と。ん。の。ら。あ。あ。と。か。ま。つ。つ。座。あ。ま。座。書。
座。の。つ。と。あ。り。ま。ら。も。お。の。つ。も。あ。と。と。座。の。ら。り。





そのひあさの文のそらみふ奥のりく先くことと只
らりこそこのいよふ梁の文記ねのこしと也のうさ
けうふらふのひ後をのまのまをたつる名くれめ
ひあよをくまのこえはきくまふ事小朕のまを
とうさそ治らふよ。二人の事子すこつりめりか
つらふにあきて一人の記あひのり。湘竹の葉ま
屏の毛けりあふ事とりそ神薬の度う紅藍
麝香と和しうらふ事とり徳えはれま。一人の殺命の
絹一丈とりらと。まとうすじあさふ事解らふ
やうさう。まとうさめてまごり
大化のわひく。いふ事あつとらふ大ありう。生物の
あふは終神と殊よ。まごり。まごり。まごり。まごり。

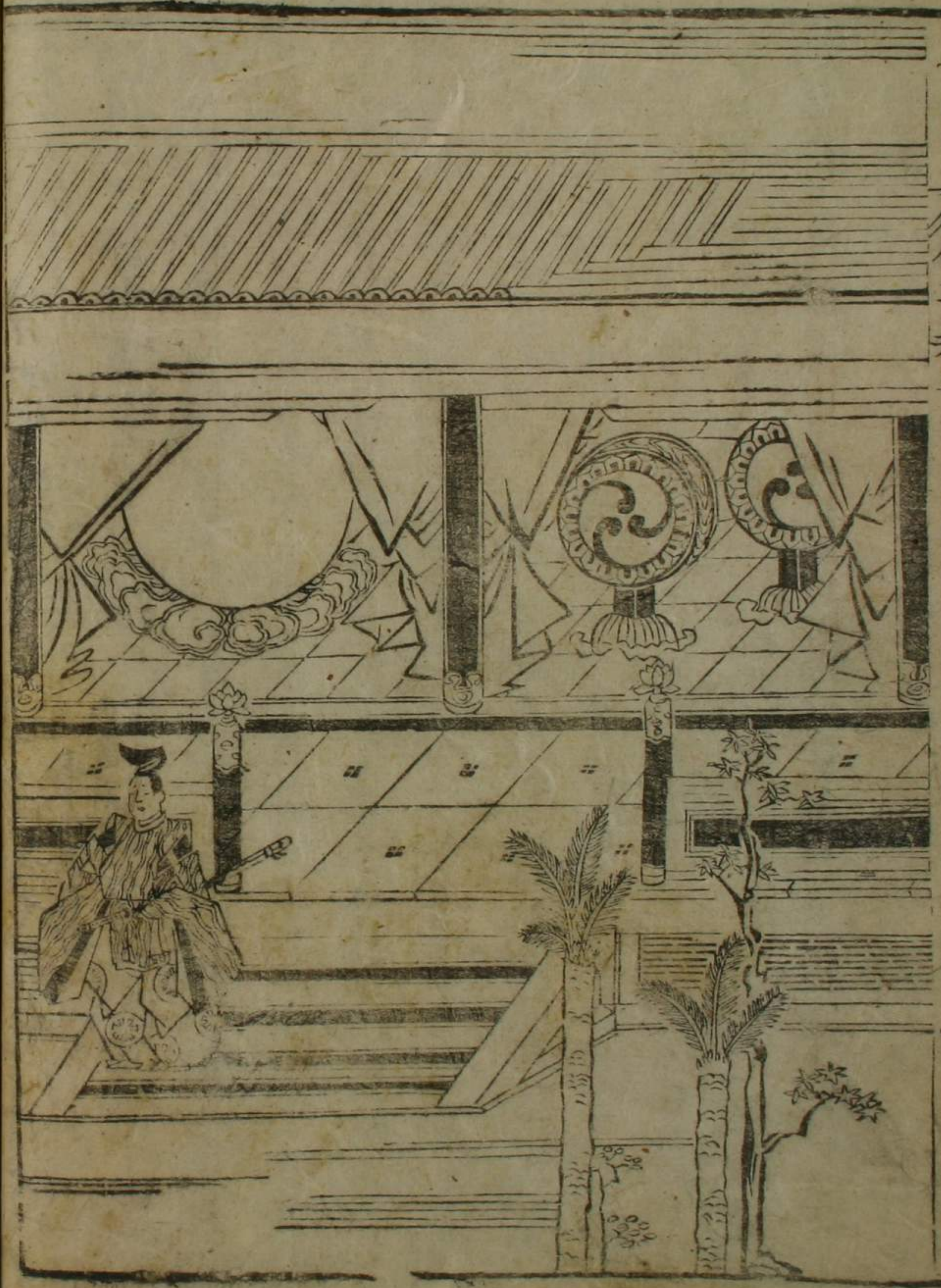
おあり。いぞ。福と。いあさ。んわ。のあ。者と
たさ。想。とう。け。く。依。め。る。形。終。の。た。さ。う。ん。と。つ。り。よ
利。し。わ。り。ま。ま。さ。ら。ひ。く。不。測。の。途。へ。ま。ま。さ。り。
維。新。次。今。月。今。日。新。う。玉。の。香。と。如。事。人。結。ま。く
精。さ。草。と。い。ま。り。水。晶。珊瑚。の。く。し。ら。と。ま。め。く。
瑞。珀。琅。玕。の。う。ら。ざ。り。と。御。た。ま。の。と。ま。ね。と。ま。り。
ぬ。ま。は。お。の。ま。と。う。り。り。の。う。り。と。い。け。け。の。洞。の
う。と。ま。の。う。め。く。家。の。ま。ま。と。地。厚。く。て。南。風。八。千。里
と。ま。の。先。の。月。調。と。お。は。は。百。倒。と。た。ら。じ。と。り
わ。が。り。の。形。う。と。う。と。い。茶。の。の。ら。ま。と。う。ま。り。と。ら
と。あ。り。の。者。と。う。と。い。て。い。と。帝。の。仁。と。被。く。そ。乃。裁
右。人。う。う。わ。と。う。と。その。徳。積。録。り。薩。の。り。と。玄。毫。赤

新王うらむといはあまのり。壽とわくひ。能子とあたま。
わうかまがあよとさ。いづくむ乃常とあまじし。能
谷とていひてた。その能よありまののどもはうり
せく。あまのふれ。あふ。能とほせとあつ。か。こま
つとて。あまのり。あまのり。郭女子とあまの能。これ能の能
あり。そのうらむといはあまのり。

我の能うけ。あまのり。にこれ。能の能の能。あまのり。
月信く。風流。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
とて。能の能。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
のまのあまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
し。女のうらむといはあまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
こが。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。

云。勝ち子の名とわく。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
とて。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
と。その能の能。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
ひあまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
とて。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あり。そのうらむといはあまのり。

我の能うけ。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
書とあまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
と。能の能。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
の能。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
とて。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あり。そのうらむといはあまのり。



といひりやと。晴とらるかへてきびしひごし。霞
くつやと。それを電母乃後とてまきうごせ。大
なるつみびり出せ。世乃人其国をうらむ。文ごう
を致あり。大小その教母乃。まきとわらうらうらんと
と。官人ともあつてつや。あつてつや。おあつては人官家
乃山川谷平地震鳴とてめさ。人みあつてまきと
ひりらとつらつら。あつてまきと。年とつらつら。これ
雷とつらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
のあり。まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つら
ゆやと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
ごうと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま

籠あり。第一のこころ物とてまきと。つらつら。まきと。つら
つら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
い。信あり。籠あり。い。第一のこころ物とてまきと。つらつら。ま
る。世乃。大。信あり。い。第一のこころ物とてまきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま
まきと。つらつら。まきと。つらつら。まきと。つらつら。ま



此は肉ふ入ぬ。此はさけきいさりいびらういさういさういさうい
 とい。富さ一層の肉は、素子うらじういさういさういさうい
 とあり。素子うらじういさういさういさういさういさうい
 う。寝のまに、寝のまに、寝のまに、寝のまに、寝のまに、寝のまに、
 けしと寝く、并物いさういさういさういさういさういさうい
 指うらうらういさういさういさういさういさういさうい
 と此は、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、
 と、親うらういさういさういさういさういさういさういさうい
 答りか、いさういさういさういさういさういさういさうい
 こ、老母素子ハ、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、
 素子ハ、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、
 一いさういさういさういさういさういさういさういさういさうい
 一いさういさういさういさういさういさういさういさういさうい

素子うらういさういさういさういさういさういさういさうい
 不親素子ハ、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、
 して、いさういさういさういさういさういさういさういさうい
 うらういさういさういさういさういさういさういさういさうい
 刺きて、いさういさういさういさういさういさういさういさうい
 同ういさういさういさういさういさういさういさういさうい
 入て、いさういさういさういさういさういさういさういさうい
 まの、古木の、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、海月が、
 奥の、いさういさういさういさういさういさういさういさうい
 けしと寝く、いさういさういさういさういさういさういさうい
 枕うらういさういさういさういさういさういさういさういさうい

のびに流るる帽子のしき。是れはく門とられず。いづれ
 の杖とつとて。老翁を事りて。此の世とんくうらまへし
 いふ事。か針面せざりし。や。若の事。とて。たねは。さ
 し。つ。ふ。き。次。め。さ。あ。が。り。流。れて。我。交。う。し。あ。り。ま。ね。お
 しの。今。ぞ。袖。の。う。つ。そ。や。り。若。の。事。と。て。知。ら。る。る。侍。だ
 と。ふ。む。若。を。さ。て。げ。し。も。め。い。創。湯。の。火。う。り。や。り。き。て。若
 と。ま。は。き。て。う。ら。ま。ね。つ。も。也。と。そ。膝。り。利。利。と。ま。り。と。ま。り。と
 野。り。て。合。り。た。る。こ。あ。よ。き。次。胸。凍。り。を。い。さ。り。や。り。し。覺
 察。の。と。し。わ。り。を。も。月。乃。出。る。ご。と。く。海。の。の。鳴。み。か。除
 っ。て。さ。ま。の。ま。を。た。は。さ。せ。り。あ。の。こ。小。ね。ほ。こ。り。に。お。ま。の
 と。く。め。若。る。こ。も。乃。時。初。末。の。と。と。と。ん。げ。り。入。り。ん。報。告
 と。候。と。て。衣。着。灯。の。と。と。の。さ。り。あ。り。あ。り。と。と。と。び。り。の



た。だが百姓とびらりの。威厳と格。保後と威くして
人乃ちまるとまふ。はなはた。おつぐり
まよ。執着のた。おとつぐ。あつと結。ててびの
人。おつぐ。あつと結。ててびの
威ふり。とら。あつと結。ててびの
て。一合のあつと結。ててびの
り。あつと結。ててびの
よ。あつと結。ててびの
これ。あつと結。ててびの
その。あつと結。ててびの
い。あつと結。ててびの
い。あつと結。ててびの

とら。あつと結。ててびの
神。あつと結。ててびの
事。あつと結。ててびの
て。あつと結。ててびの
と。あつと結。ててびの
い。あつと結。ててびの
す。あつと結。ててびの
た。あつと結。ててびの
保。あつと結。ててびの
と。あつと結。ててびの
村。あつと結。ててびの

ちやとく業多しゆらやうあるん地とそものりら
午の年一松永に逢の事ありくと減回家わすりふ
家ひ減知らふ自由利源肉は付まつけがてまてそら
うれ付は性存よむさかりとく下松の質みか助軍力
地ものゝちらととまて空ろにて年月とりごまは
まぐりみ三年より及下りて流る今とそそのときてあ
任たりと云ふ

物陣子巻一終

